

資料1

地域の担い手への普及・広報活動

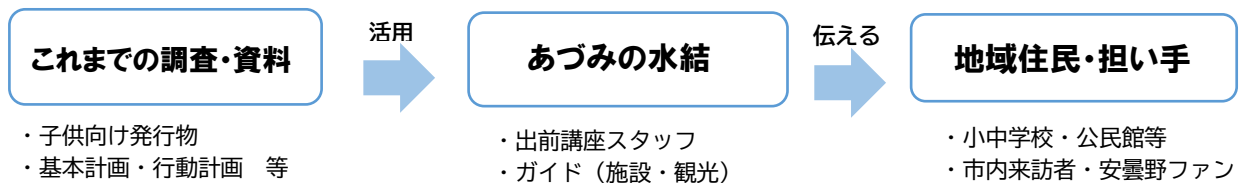
地域の担い手への普及・広報活動

1. 「あづみの水結」の充実化

安曇野の水や水文化を守り、水の魅力をPRする市民や地域外での担い手を登録するため、令和4年4月に創設。農家、企業、飲食店など16者（11個人・5団体）が登録している。現在は、個々で水資源のPRなどを行っているが、今後、情報提供や発信の充実化と登録者数の拡大を図りたい。

（1）登録者への情報提供と活動

- ・地下水に関わる市民講座や保全活動などをEメールでお知らせした。（憩いの池の清掃に2名、市民講座に1名が参加）。今後、環境フェアのブース出展や学習会への参加・参画を呼び掛ける。
- ・今後、これまで水環境審議会等で深めてきた知見を広く市民等に知っていただくため、資料を活用しながら、小中学生を対象とした出前授業のスタッフになっていただくなど、水資源の伝道師的な役割を担っていただくことを目指したい。



（2）登録者数拡大に向けた取り組み

- ・あづみの水結のチラシ（別添資料）を刷新し、関連イベントでの配布を行っている。
- ・活動の輪を広げるため、保全活動をしている事業者、ボランティアに積極的に制度を案内する。
- ・令和8年度までに30者の登録者増を目指す。

（3）情報発信を強化する取り組み

- ・あづみの水結公式SNS（X）を本年6月に開設。フォロワーは現在170人程度。
- ・職員が週2回を目途に、地下水の仕組みや涵養の取り組み、水資源の魅力などを掲載。
- ・今後、水結登録者の活動も紹介し、市内外に広く発信したい。
- ・また、認知度を上げるため、「水結」の名称とロゴマークを印刷物やイベントなどでも広く活用したい。



Xで発信中！

2. 今後のその他普及・広報活動

(1) 8/1 (水の日) 関連イベント

ア. 親子対象 水めぐりツアー

- ・市内外の親子を対象に、安曇野の水資源について学ぶバスツアーを企画(チラシ別紙)。
- ・行程：烏川溪谷緑地→ゴールドバックあずみ野工場→市内水田→田淵行男記念館
- ・定員：20名(応募者252人)
- ・報道や広報により、ツアーでの内容をさらに広めたい。



烏川溪谷



麦あと湛水



ゴールドバックあずみの工場



田淵行男記念館

イ. その他関連イベント

- ・市役所西口でコンパクト展示「みえる水、みえない水～安曇野を巡る地下水の秘密」(7/25～)
- ・市役所東口デジタルサイネージで国交省「水の日 PR 動画」放映(7/8～)
- ・SNSによる水環境保全の発信(8/1)



国交省「水の日」PR動画

(2) 9/8 (日) 憩いの池清掃&大阪公立大学遠藤ゼミのワークショップ

- ・遠藤委員長のゼミが9月8日(日)の「憩いの池」清掃に併せ、市内でゼミ合宿。
- ・9月6日(金)ゼミ生9人と地下水に関わるテーマを設けグループ討論。後半発表。
- ・9月8日(日)関係者、水結と憩いの池清掃



7/12 憩いの池清掃の様子



あづみの水結

AZUMINO MIZUYUI

水を守る活動の輪を広げ、
健全な地下水環境の創出を目指します。

みずゆい
あづみの水結とは、

水や水文化を守り、安曇野の水の魅力を発信する
個人や団体の登録制度です。

安曇野の水を愛するあなたの参加を、
お待ちしております。

安曇野市 市民生活部 環境課 環境政策担当
長野県安曇野市豊科6000
TEL 0263-71-2492

2024年6月発行

安曇野市は、雄大な北アルプスが育んだ豊かな地下水や湧水に恵まれ、その水は市民の生活・養魚・わさび栽培・工業に活用されています。

しかし、近年はこの豊富な地下水や湧水に大きな変化がおきています。

安曇野の豊かで清らかな水を次世代に引き継ぐために、あづみの水結の活動に登録してみませんか。

あづみの水結にはどんな人がなれるの？

あづみの水結は、「水の輪」を広げる活動です。水を守る活動や水の魅力PRの活動ができる個人・団体・企業が参加できます。登録後は、水結の呼称を用い、それぞれが水の魅力・保全にかかわる活動や情報発信を行っていただきます。

また、Eメール登録者には、市から水資源にかかわる講座、保全活動、広めていただきたい情報などを、ご案内させていただきます。

登録方法

1 登録申込書に記入する

登録申込書に必要事項を記入してください。

登録申込書の入手は市ホームページからダウンロードするか、環境課にお問合せください。

2 環境課に提出する

安曇野市環境課環境政策担当に、登録申込書を提出してください。

あづみの水結



お問合せ

「あづみの水結」事務局
安曇野市 市民生活部 環境課 環境政策担当
399-8281 長野県安曇野市豊科6000
TEL：0263-71-2492（平日8:30～17:15）
E-mail：kankyou#city.azumino.nagano.jp（#→@）



で情報発信中！▶



安曇野

親子で学ぼう！

水めぐり

地下水は、どこからやってくる？ ツアー



北アルプスから流れ出す
清流・烏川溪谷、飲料工場、
湧き水地域をめぐるバスツアーに
親子で参加しよう！！



対象

小学生とその保護者
(市外在住でも参加OK！)



費用

無料

2024

8/1 [木]

水の日

9:00～12:10

定員20名程度

スケジュール



9:00 安曇野市役所集合 ▶ 9:10 烏川溪谷緑地(水めぐりのスタート地点)

▶ 9:50 ゴールドパックあずみ野工場 (工場見学と試飲もあるよ！)

▶ 11:25 田淵行男記念館 (湧水に入ってみよう！) ▶ 12:10 解散

お申込み

▷ 申込期間 **6/24** (月) 8:30～**7/3** (水) 17:15

▷ 申込方法 右の二次元コードから電子申請でお申込みください。
電子申請を使用しない場合は、下記担当までご連絡ください。
申込み多数の場合は、抽選となります。



申込みフォーム

TEL **0263-71-2492** (平日8:30～17:15)
安曇野市 市民生活部 環境課 環境政策担当
E-mail : kankyou#city.azumino.nagano.jp (# → @)



あづみの水結
情報発信中！



6 安全な水とトイレ
を世界中に



資料 2

地下水に関する市民アンケートの実施について

令和 6 年度 地下水保全のための市民アンケート計画書（案）

令和 6 年（2024）7 月 29 日
安曇野市 市民生活部 環境課

1 目的

平成 29 年度に策定し、令和 4 年度に中間見直しがされた「安曇野市水環境基本計画」では「豊かな水環境」と「地域経済」を両立する形で次世代へ引き継いでいくため、水環境の保全・強化・活用に向けた取組みの全体的な方針が策定され、計画の方向性について実効性のある対策を具現化するため、「安曇野市水環境行動計画」も定められている。

安曇野市は、行動計画に掲げる 6 つの実施施策により、涵養に関する具体的な検討や貴重な資源である地下水を大切に使うための普及促進に努めてきた。この度、基本計画及び行動計画の計画期間が満了し、令和 9（2027）年度から施行される次期計画を策定するのに先立ち、本アンケートを実施し、これまでに 2 回（平成 23・令和元年度）に実施した「安曇野市の地下水保全に関するアンケート調査」の結果と比較することで、市民とともに取り組む具体策の立案に役立てることを目的とする。

2 調査方法

配布数 1,500 通※

抽出方法 住民基本台帳から 20 歳以上の個人を無作為抽出

回答方法 回答用紙を返信、または回答用紙と Web 回答併用

※安曇野市の 20 歳以上の人口 80,688 人（2024/4/1 現在）を母集団とした傾向を信頼度 95%で反映するのに必要なサンプル数と、前回までの回収率から計算した最低配布数は 1074 通

3 調査期間（予定）

9 月上旬 アンケート発送

10 月上旬 回答期限

10 月中旬 データ入力・結果集計

～3 月下旬 審議会報告、結果公表

-市民アンケート結果-

■市民アンケートの実施概要

【目 的】

○安曇野の地下水保全に関する市民意識の把握

- ・地域資源としての地下水に関する意識
- ・地下水の保全に関する意識
- ・地下水保全に向けた取組みに関する意識

○地下水の保全に関する意識啓発等→現状説明資料を添付

○シンポジウムを周知→シンポジウム開催のチラシを同封

【実施期間】

○平成23年7月1日～22日

【対象者・調査方法】

○対象者：安曇野市民1,500名

（住民基本台帳から20歳以上の個人を無作為抽出）

○調査方法：郵送配布・郵送回収

【回収結果】

○回収数：574票 （回収率38.3%）

■市民アンケートの実施概要

3

◇アンケート内容 →調査票参照

構 成	設 問 内 容
地域資源としての地下水に関する意識	・安曇野市にとって、地下水は大切な資源と思いますか。 ・水道水の大部分が地下水を利用していることを知っていましたか。 ・地下水は誰のものと思いますか。
地下水の保全に関する意識	・地下水が減少傾向にあることを知っていましたか。 ・湧き水に関連して、心配と思うことは。 ・地下水を保全に取り組むべきと思いますか。 →地下水を保全する場合は、誰がやるべきと考えますか。 →保全に取り組む必要がないと思う理由は何ですか。
地下水保全のための取組みに関する意識	・地下水を保全するために、どのような取組みを行うとよいと思いますか。 ・普段から節水に取り組んでいますか。

■市民アンケート結果

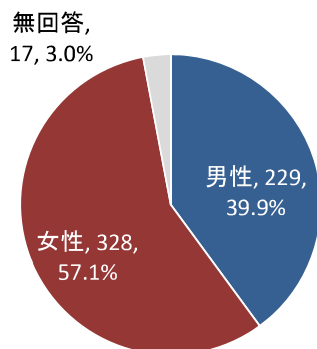
4

◇回答者属性 1

(1) 性別

- ・男性に比べ、女性の割合がやや高い

【グラフ数値：選択肢、回答数、割合%】

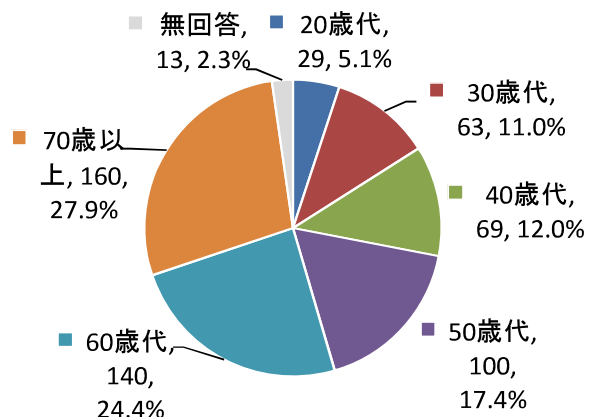


[全市の割合と1割程度の差]
(全市20歳以上集計：男性48.1%、女性51.9%)

(2) 年齢

- ・70代以上および60代が多く、あわせて約半数を占める
- ・20代～50代があわせて約半数

【グラフ数値：選択肢、回答数、割合%】

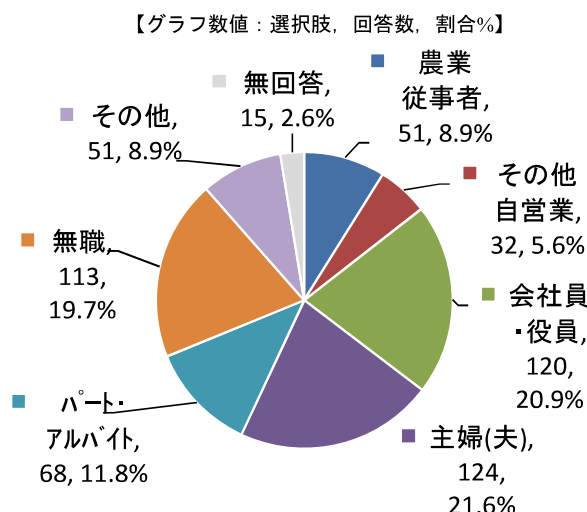


[全市の割合と比べて60歳以上が1割程度多い]
(全市20歳以上集計：20歳代10.9%、30歳代16.5%、40歳代16.3%、50歳代15.1%、60歳代18.6%、70歳代以上22.6%)

◇回答者属性 2

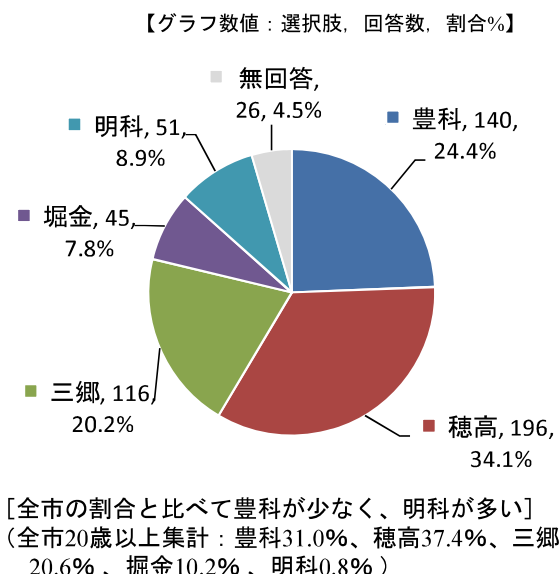
(3) 職業

- ・会社員・役員、主婦（夫）がそれぞれ2割を超える
- ・その他、無職やパート・アルバイトの割合が高い



(4) 住まい

- ・穂高が最も多く、豊科、三郷とつづく



◇結果の分析 1

【地域資源としての地下水に関する意識】

- 市民の大多数の方が地下水は大切な資源と感じており、地域資源としての**地下水に対する意識は高い**。
- 地下水は『みんなの共有財産で公のもの』という意識が高く、**地下水＝公水**という感覚が持たれていると考えられる。
- 一方で、水道水の大部分が地下水であることの認知は半数程度であり、**地下水利用者としての感覚は強くはない**。（年代が高い程認知されている）

◇結果の分析 2

【地下水の保全に関する意識】

- 地下水が減少傾向にあることはメディアや市の広報などを通じて広まっているものの、**半数程度にしか認知されていない状況にある。**（年代が高い程認知されている）
- 湧き水に対しては、『**水質悪化**（特に50・60歳代が高い）』『**地下水の減少**（特に30歳代が高い）』『**地域産業・観光への影響**』が懸念されている。
- 地下水保全に対する意向は強く、特に、**市民・企業・行政の協働の取組**が求められている。

◇結果の分析 3

【地下水の保全に取組みに関する意識】

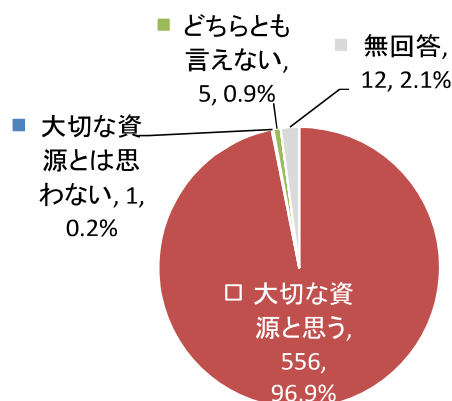
- 地下水保全の取組みとして、特に『**意識啓発**』や『**量だけではなく質の保全**』が求められている。
- 取組主体別には主に以下の取組が求められている。
 - 市民：**節水（※）、雨水浸透施設** 等
 - ※普段から節水に取り組んでいる方が半数以上。
 - 企業：**水質保全、取水ルール、雨水浸透施設** 等
 - 農業従事者：**休耕田水張り・冬水たんぼ** 等
 - 行政：**市民等への意識啓発** 等

◇市民アンケート結果

問1. 地下水は大切な資源だと思うか？

- ・ 大多数の方が、地下水は大切な資源だと感じている。
- ・ 地域別、年齢別には大きな差はなく、多数の方が大切な資源だと感じている。

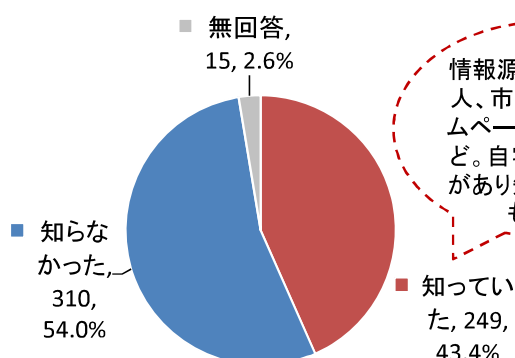
【グラフ数値：選択肢、回答数、割合%】



問2. 市の水道水の大部分は、地下水を利用していることを知っていたか？

- ・ 知っていた方に比べて、知らなかった方がやや多い。
- ・ 地域別には、明科が6割程度知っており、他地域に比べて1割程度高い。
- ・ 年代別には、20～50歳代では知っているのが3割程度であるのに対し、60歳代では5割程度、70歳代では6割程度である。

【グラフ数値：選択肢、回答数、割合%】

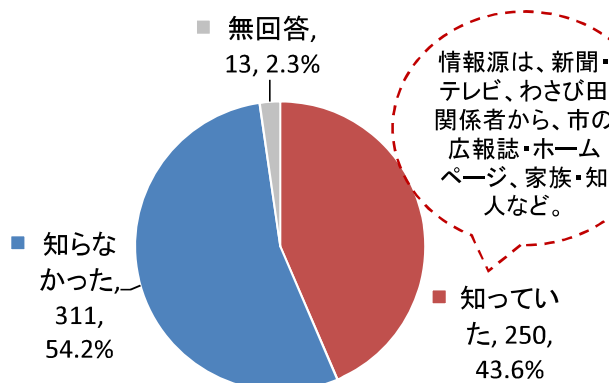


◇市民アンケート結果

問3. 湧き水の量が減少傾向にあることを知っていたか？

- ・ 知っていた方に比べて、知らなかった方がやや多い。
- ・ 地域別には、穂高では知っている割合が5割程度と他地域より高い。
- ・ 年代別には、年代が高くなるほど知っている割合も高く、60歳代・70歳代では5割程度となる。

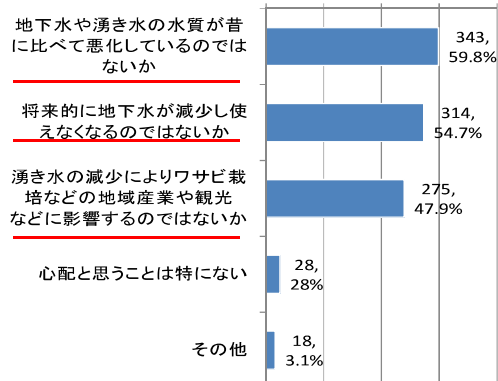
【グラフ数値：選択肢、回答数、割合%】



問4. 湧き水に関して、心配に思うこと

- ・ 特に、『水質の悪化』や『将来的に地下水が使えなくなること』が心配されている。
- ・ 50歳代・60歳代では『水質の悪化』の割合が7割近い。30歳代では『将来的に地下水が使えなくなること』の割合が7割近い。

【回答者数に対する割合%】

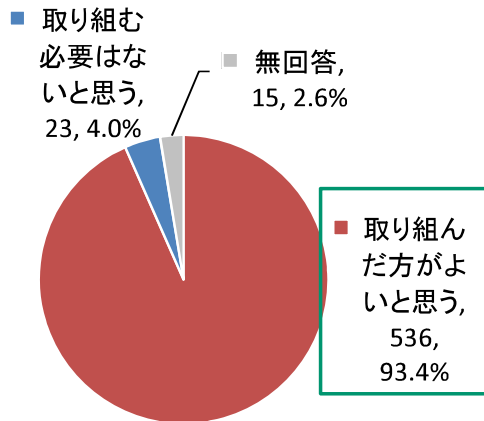


◇市民アンケート結果

問5. 地下水の保全に取り組むべきと思うか？

- ・ 大多数の方が、地下水の保全に取り組んだ方がよいと考えている。
- ・ 地域別、年齢別には大きな差はなく、多数の方が取り組んだ方がよいと考えている。

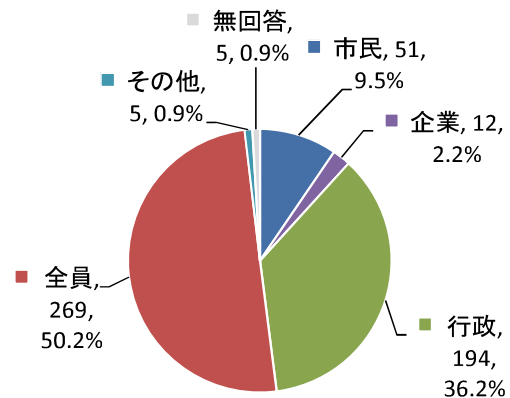
【グラフ数値：選択肢、回答数、割合%】



問5-1. 地下水保全は誰が取り組むのがよいか？

- ・ 『市民、企業、行政全員』が最も多く、『行政』がつづく。
- ・ 地域別には大きな差は見られない。
- ・ 各年代ともに全体と類似の傾向であるが、20歳代では行政の割合が5割弱とやや高い。

【グラフ数値：選択肢、回答数、割合%】

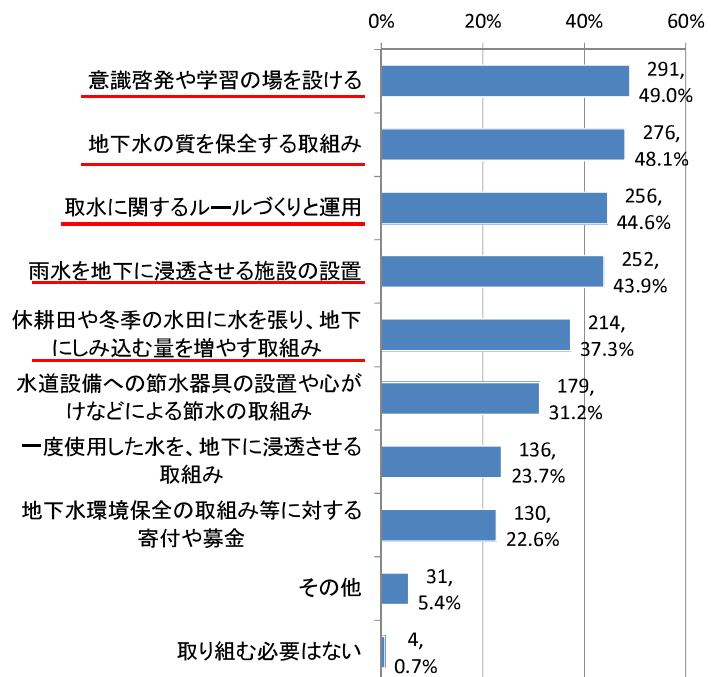


◇市民アンケート結果

問6. 地下水保全のために、どのような取り組みが必要と思うか？

- ・ 特に、『意識啓発や学習の場を設ける』こと、『量だけでなく質を保全する取り組み』が求められている。
- ・ 地域別、年代別には大きな差は見られない。

【回答者数に対する割合%】

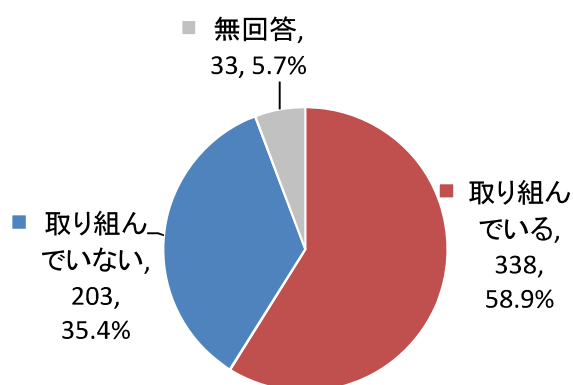


◇市民アンケート結果

問7. 普段から節水に取り組んでいるか？

- ・半数以上の方が節水に取り組んでいる。
- ・年代別には、取り組んでいる割合が30歳代～70歳代以上は5～6割程度であるが、20歳代は3割程度と低い。

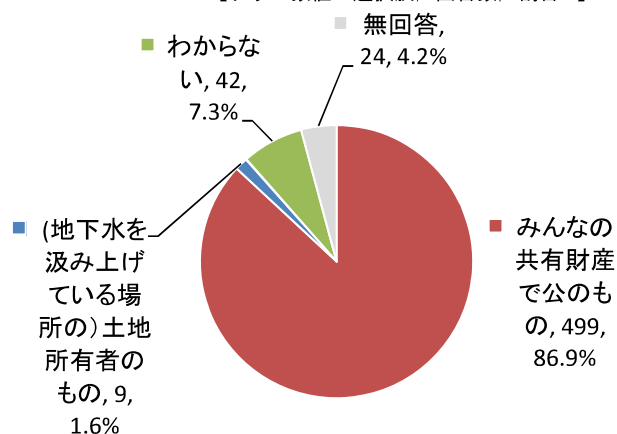
【グラフ数値：選択肢，回答数，割合%】



問8. 地下水は誰のものと思うか？

- ・『みんなの共有財産で公のもの』という意識が高い。
- ・地域別、年齢別には大きな差はなく、多数の方が『みんなの共有財産で公のもの』と回答している。

【グラフ数値：選択肢，回答数，割合%】

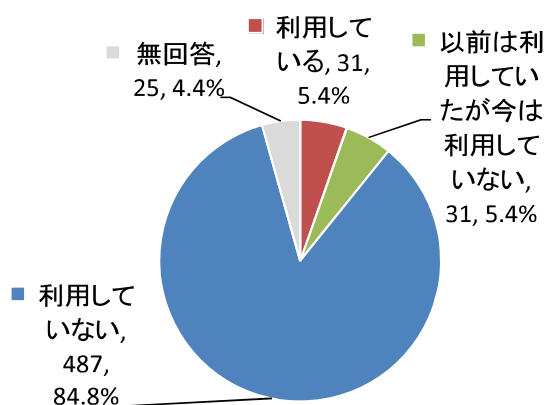


◇市民アンケート結果

井戸水の利用状況

- ・井戸水を「利用している」、「以前利用していた」あわせて1割程度。

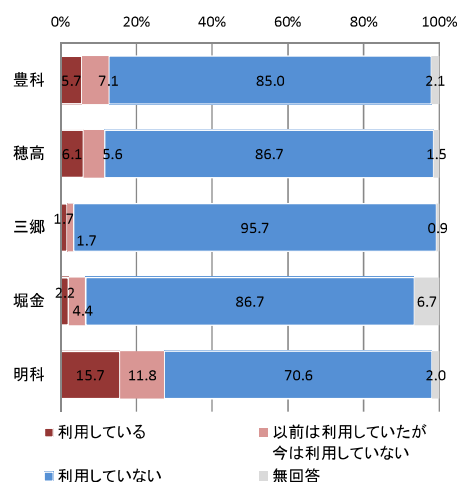
【グラフ数値：選択肢，回答数，割合%】



地域別

- ・明科地域が最も多く、豊科地域と穂高地域が同程度。
- ・堀金地域、三郷地域はやや少ない。

【グラフ凡例：地域回答数に対する割合%】

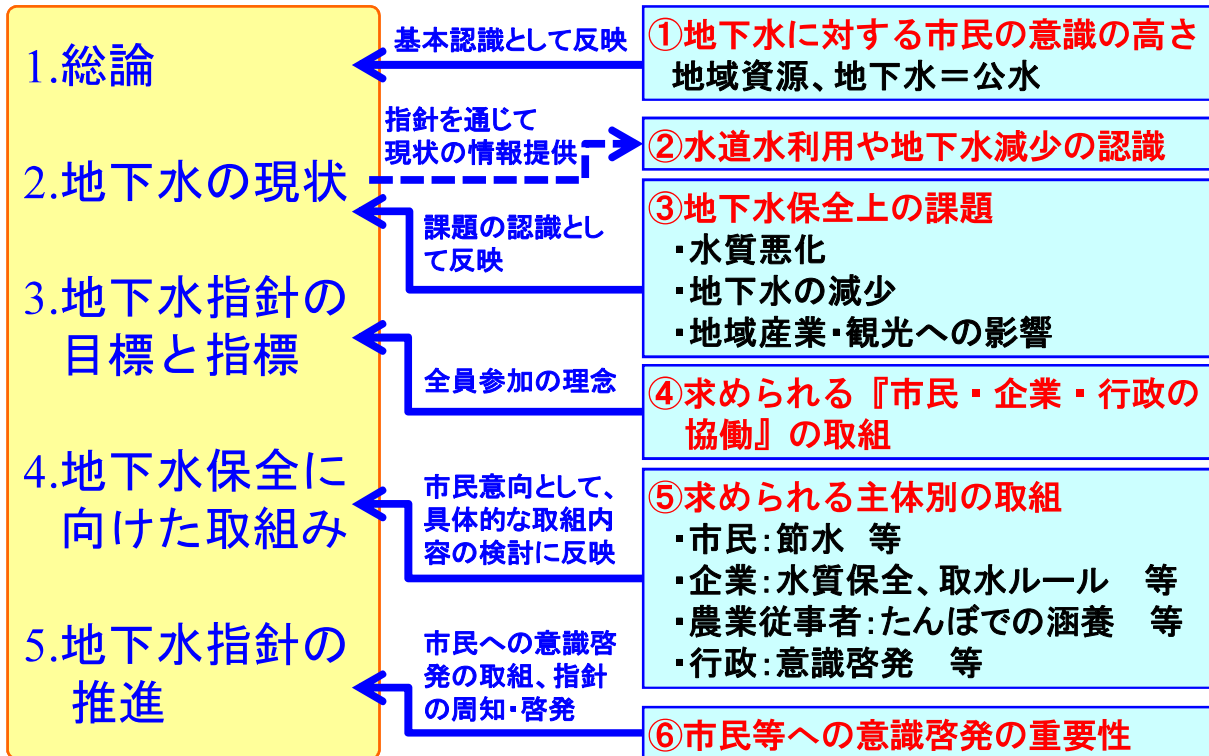


■ 指針への市民意見の反映方針（案）

15

◇ 指針(案)の目次構成(案)

◇ アンケート結果



【安曇野市の地下水保全に関するアンケート調査の結果について】

令和元年11月

安曇野市市民生活部環境課

1 調査の目的

安曇野市水環境基本計画（平成29年度～令和8年度）において、水資源の【保全・強化・活用】を実現し、将来に渡り「豊かな水環境」と「地域経済」が両立した持続的活動を次世代に引き継いでいくことを目指し、本計画を実益あるものとするため、市民の地下水に関する意識や意向について、後期行動計画（令和4年度～令和8年度）に反映するための基礎資料としてアンケート調査を実施する。

また、調査結果の公表により、市民の地下水への関心や意識醸成を図ることを目的とする。

2 調査の視点

- （1）市民にとって、地下水は地域共有の財産として認識されているかを確認し、地下水保全の取組みに対する市民意識を把握する。
- （2）地下水保全に関して、展開している施策に対し、今後も取組みが必要であるかどうか、市民の関心と事業展開の方向性及び現状の評価を把握する。
- （3）地下水保全のため、今後、新たに取り組むべき施策について、意向・意欲・認識などを把握し、後期行動計画に反映する各種取組みの展開可能性を検討する判断材料とする。
- （4）地下水保全に重要な節水に関する取組みについて、実際に市民が取り組んでいる対策や意識について把握し、節水のPR呼びかけに関する情報として活用する。

3 調査対象者の設定

■ 調査対象 安曇野市民（市全域）

■ 配布数・方法

・配布数 1, 500通

（最低450通程度※の確保を目標とし、回収率3割を想定）⇒ 前回調査（H23）と同様
※安曇野市人口を母集団として、一定の精度が確保できる。（信頼度95%、誤差5%）
票数以上を設定。

■ 抽出方法 住民基本台帳から20歳以上の個人を無作為抽出

■ 配布・回収方法 郵送配布、郵送回収（返信用封筒）

4 回収結果

■ 回収数 479通

■ 回収率 31.93%

1 回答者の性別

番号	回答	回答数
1	男性	204
2	女性	266
-	未回答	9

男43：女55と女性の方が関心が高い傾向となった。

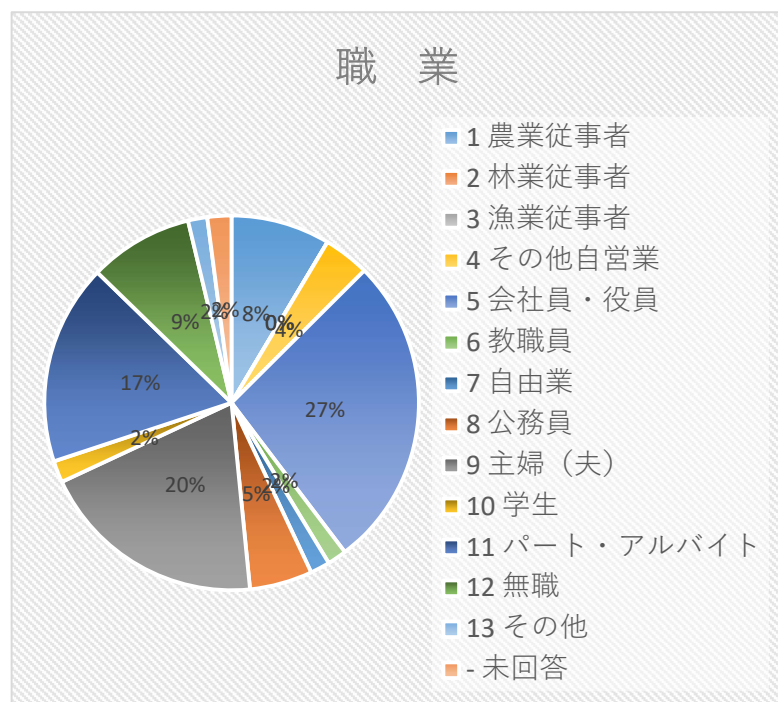
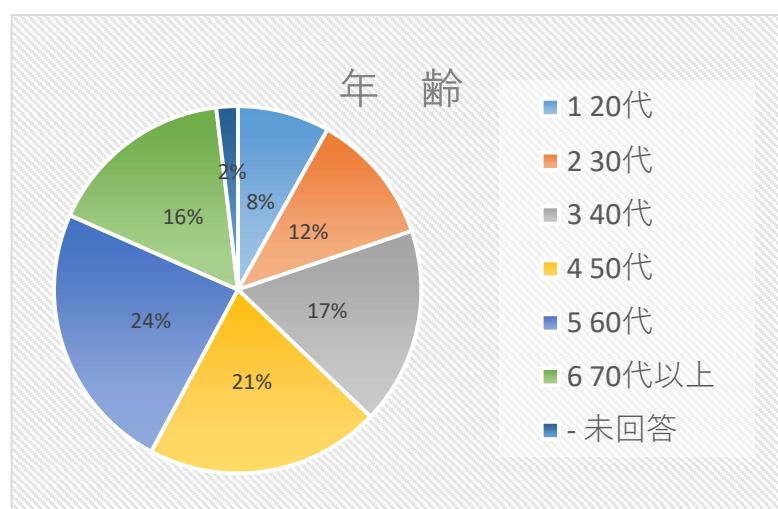
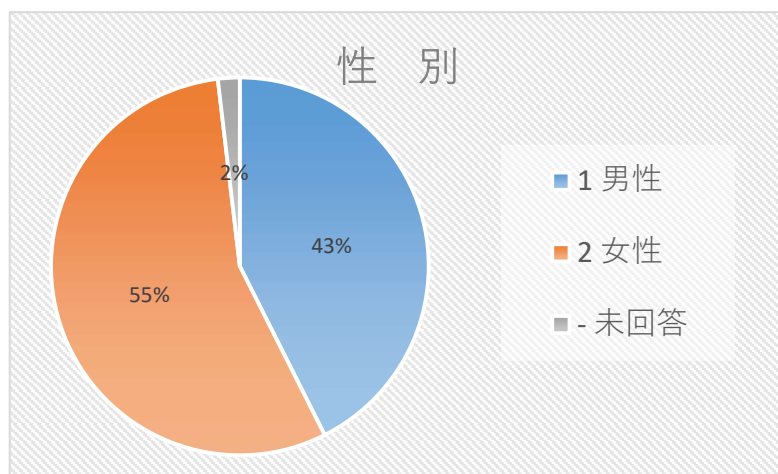
2 回答者の年齢

番号	回答	回答数
1	20代	39
2	30代	56
3	40代	83
4	50代	99
5	60代	114
6	70代以上	79
-	未回答	9

40代以上の回答率が、80%弱を占めており、40代未満は20%であることから、若年層の関心や意識が薄いことが明白な結果として表れている。

3 回答者の職業

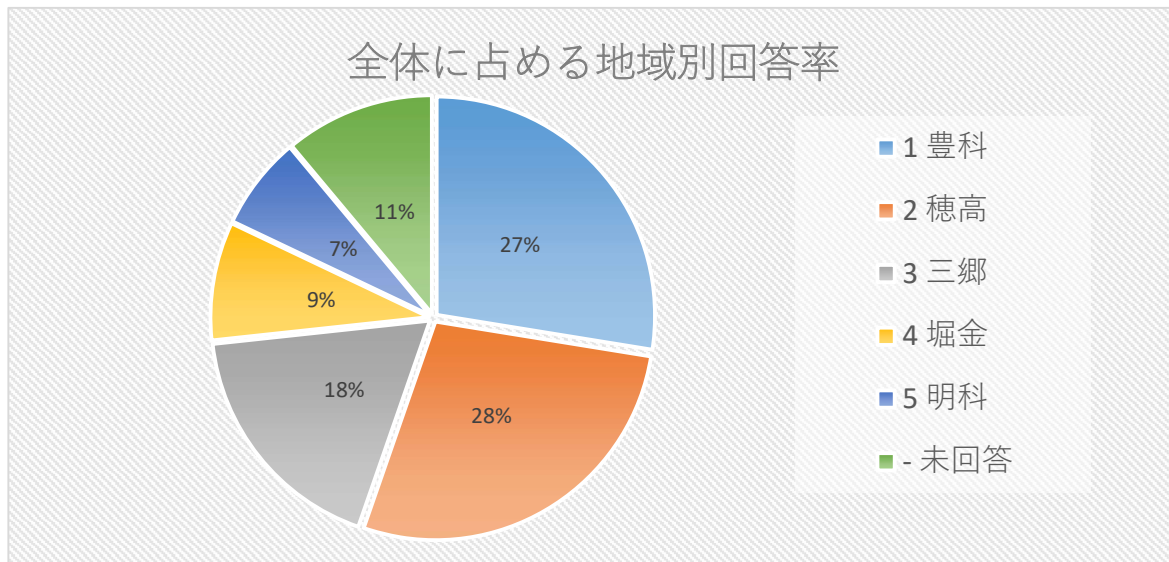
番号	回答	回答数
1	農業従事者	41
2	林業従事者	0
3	漁業従事者	0
4	その他自営業	19
5	会社員・役員	130
6	教職員	8
7	自由業	8
8	公務員	26
9	主婦（夫）	94
10	学生	9
11	パート・アルバイト	83
12	無職	43
13	その他	8
-	未回答	10



4 回答者の居住地域

番号	地域	回答数	配布数	回答率
1	豊科	132	425	31.05
2	穂高	133	522	25.47
3	三郷	86	288	29.86
4	堀金	42	138	30.43
5	明科	33	127	25.98
-	未回答	53		
計		479	1,500	31.93

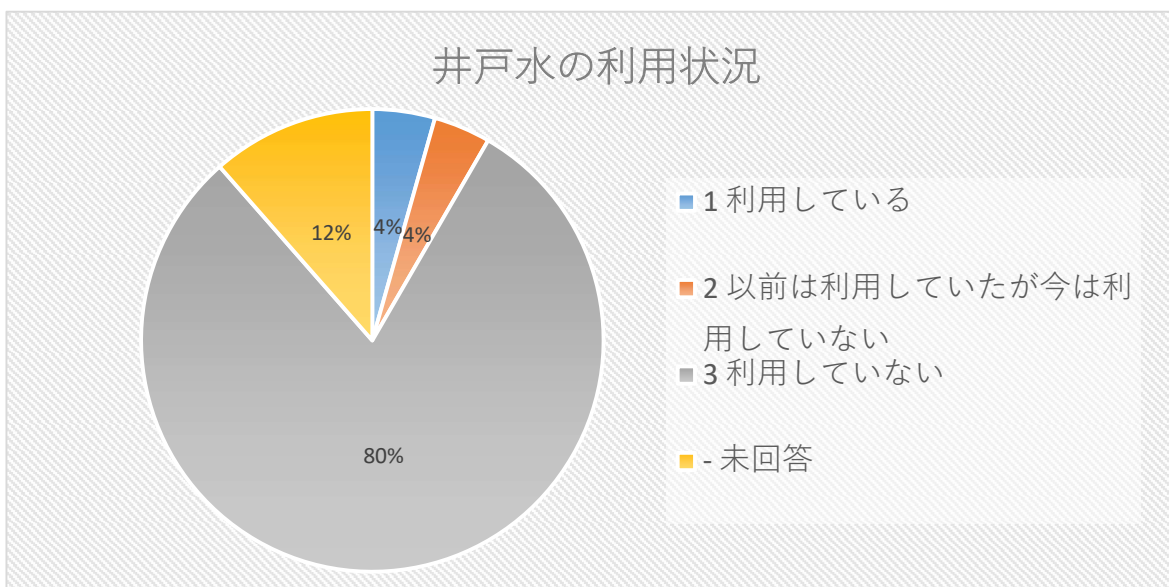
回収率30%の目標値に対し
穂高・三郷・明科地域において、若干下回ったが、未回答数を勘案すると、全地域では31.93%と回収目標を達成できた。（信頼度95%：OK）



5 井戸の水を利用しているか

番号	回答	回答数
1	利用している	21
2	以前は利用していたが今は利用していない	19
3	利用していない	384
-	未回答	55

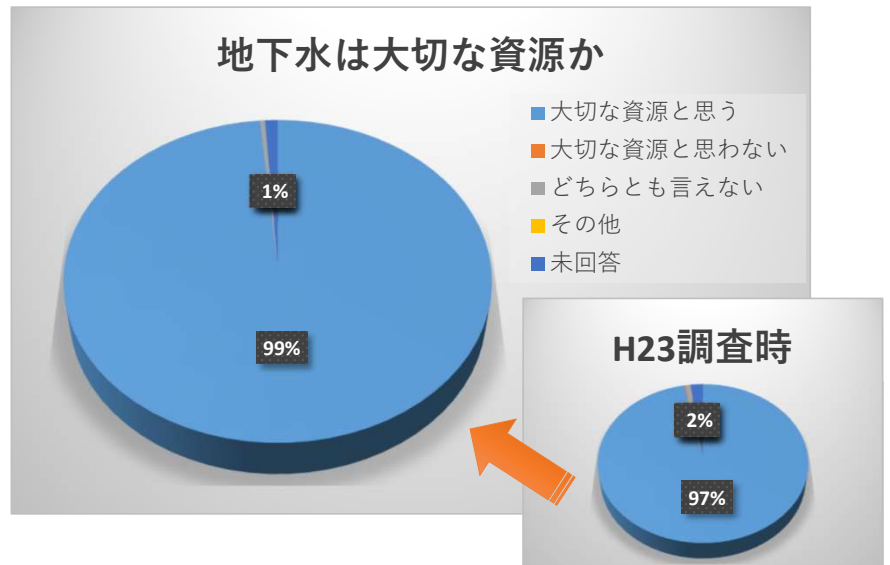
一般家庭における地下水利用率は、約4%であり、利用していない（以前は利用していたが今は利用していないを含む）は、84%と、家庭での利用率は低く更に水位の低下を要因として、利用しなくなった状況が確認できた。



【問1】 安曇野市にとって、地下水は大切な資源と思いますか。

番号	回答	回答数
1	大切な資源と思う	472
2	大切な資源と思わない	0
3	どちらとも言えない	2
4	その他	0
	未回答	5

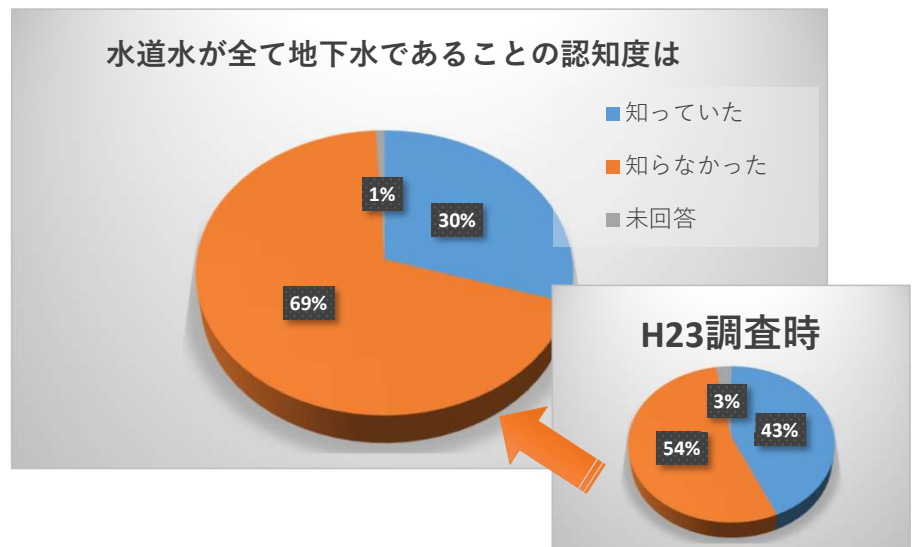
市民の共通した認識として、安曇野市にとって、地下水が大切な資源であることは浸透しており、H23調査時より更に100%に近い結果となっている。



【問2】 安曇野市の水道水は100%地下水を利用していることを知っていましたか。

番号	回答	回答数
1	知っていた	143
2	知らなかった	332
3	未回答	4

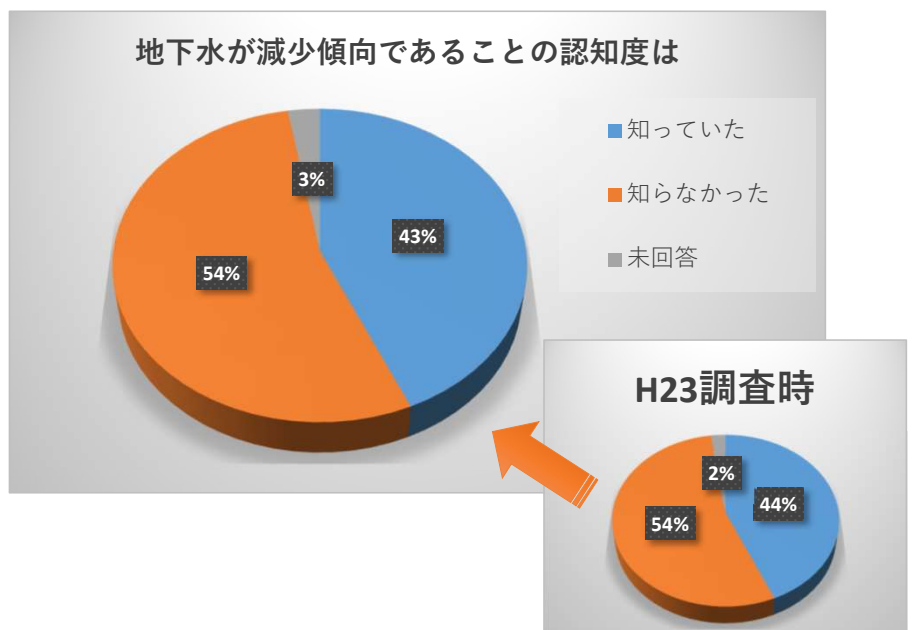
H23調査時よりも、認知度が低い結果となった。市民により一層届きやすい普及啓発の方法を工夫することが必要と思われる。



【問3】 安曇野市の地下水や湧き水の量が、減少傾向にあることを知っていましたか。

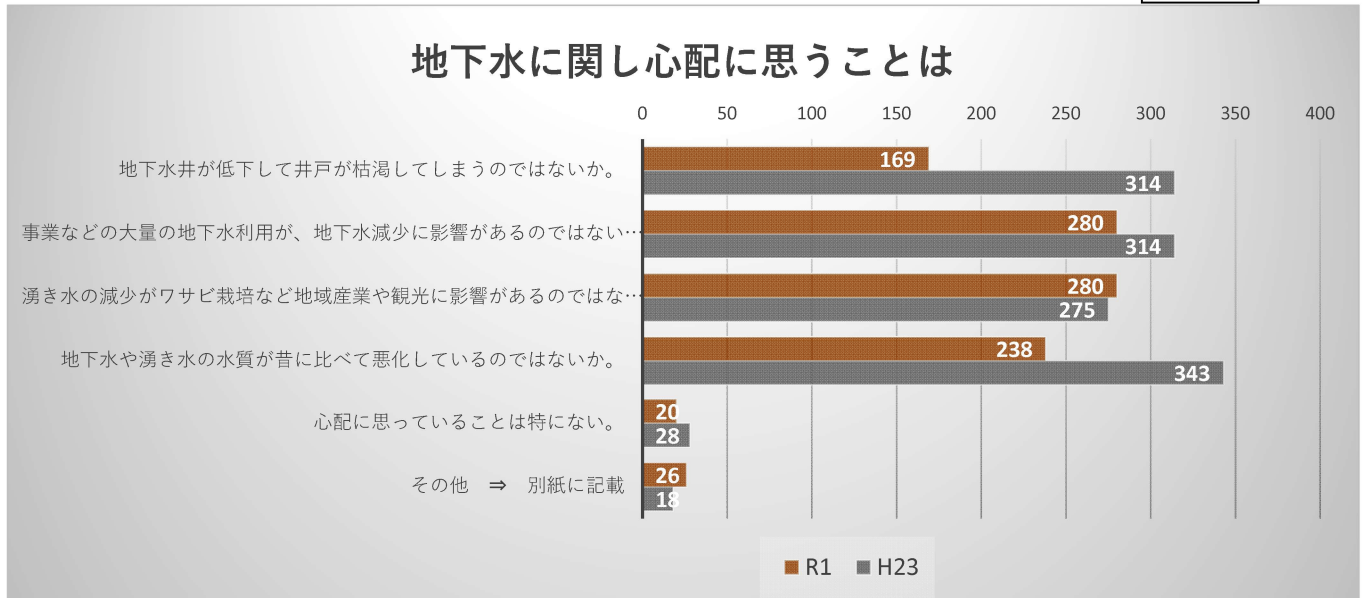
番号	回答	回答数
1	知っていた	208
2	知らなかった	258
3	未回答	13

H23調査時と比較し、ほぼ同様の結果となった。問2と同様、広報や周知方法地下水資源の大切さを市民の意識に浸透させていくため、PR手法、工夫が必要。一般市民は、日常的な上水道利用において、渇水や水資源の枯渇により取水制限等不便を被ることが無いため、危機感が薄いことが、市民の関心や意識向上につながらない一要因と捉えることができる。



【問4】 地下水に関連して、心配に思うことはありますか？（複数選択可）

番号	回答	回答数	比率
1	地下水井が低下して井戸が枯渇してしまうのではないかな。	169	16.68
2	事業などの大量の地下水利用が、地下水減少に影響があるのではないかな。	280	27.64
3	湧き水の減少がワサビ栽培など地域産業や観光に影響があるのではないかな。	280	27.64
4	地下水や湧き水の水質が昔に比べて悪化しているのではないかな。	238	23.49
5	心配に思っていることは特にない。	20	1.97
6	その他 ⇒ 別紙に記載	26	2.56
		1013	



市の資源である地下水に関し、何かしら心配があるとの回答は、全体の98%を占めており、市民が地下水に対し、関心を持ち危機感を抱いていることが把握できる。設問に関する各々の温度差はあるだろうが、地下水を保全し、健全な形で次代に引き継いでいくために、水環境基本計画や同行動計画に沿い、継続して取り組む必要性を確認できた。

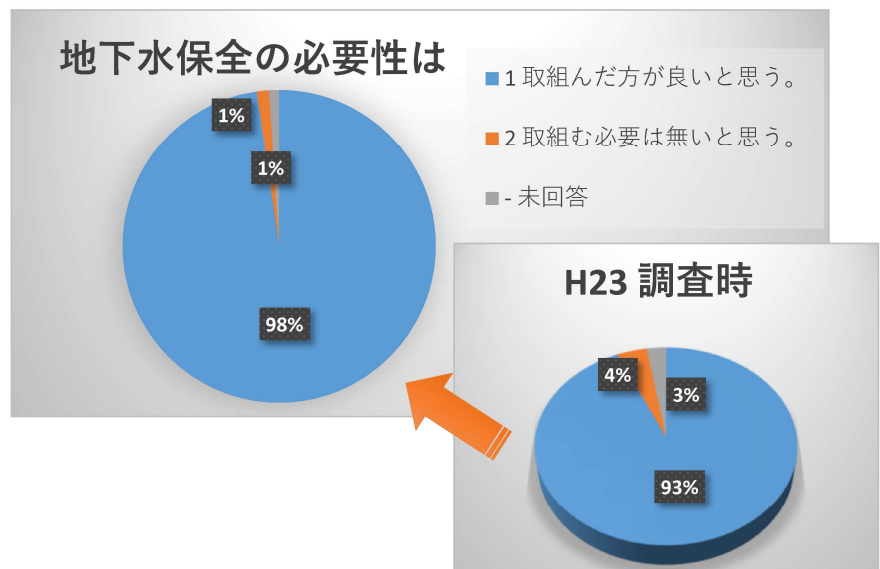
企業における取水が地下水の減少に影響しているまた、地下水減少により、地域産業や観光へ影響を及ぼすことを懸念する結果となった。また、環境全般や健康志向に関する意識の高まりも影響してか、水質の悪化についても、H23調査時と同様、依然として心配する声が多い結果となっている。

【問5】 地下水や湧き水の量を増やすために地下水の保全に取り組むべきだと思いますか。（一つだけ選択）

番号	回答	回答数
1	取組んだ方が良いと思う。	468
2	取組む必要は無いと思う。	6
-	未回答	5

地下水保全の必要性は、98%と非常に意識が高く、H23調査時より、5%上昇している。

重要な地域資源として、保全すべきとの意識の向上は、今日までの普及啓発活動の成果の現れとして評価できる。



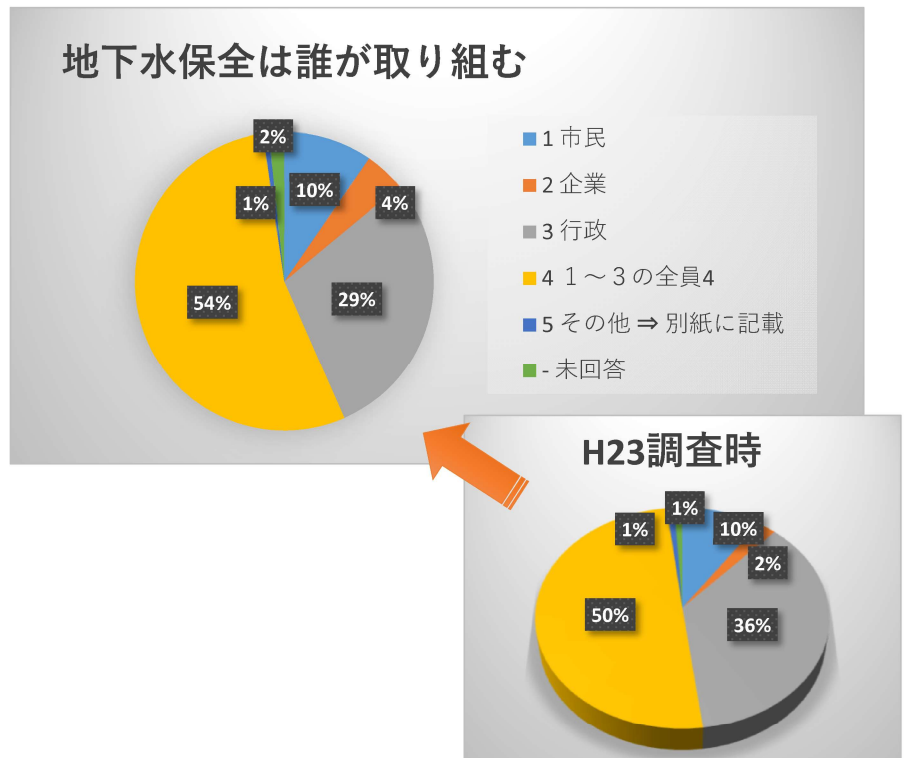
【問5-1】 地下水の保全は誰が取り組むのが良いと思いますか（一つだけ選択）

番号	回答	回答数
1	市民	46
2	企業	21
3	行政	141
4	1～3の全員4	260
5	その他⇒別紙に記載	3
-	未回答	8

地下水は公水であるとの条例の認識から、市民・企業・行政による一体的な取組みが過半数を占めている。

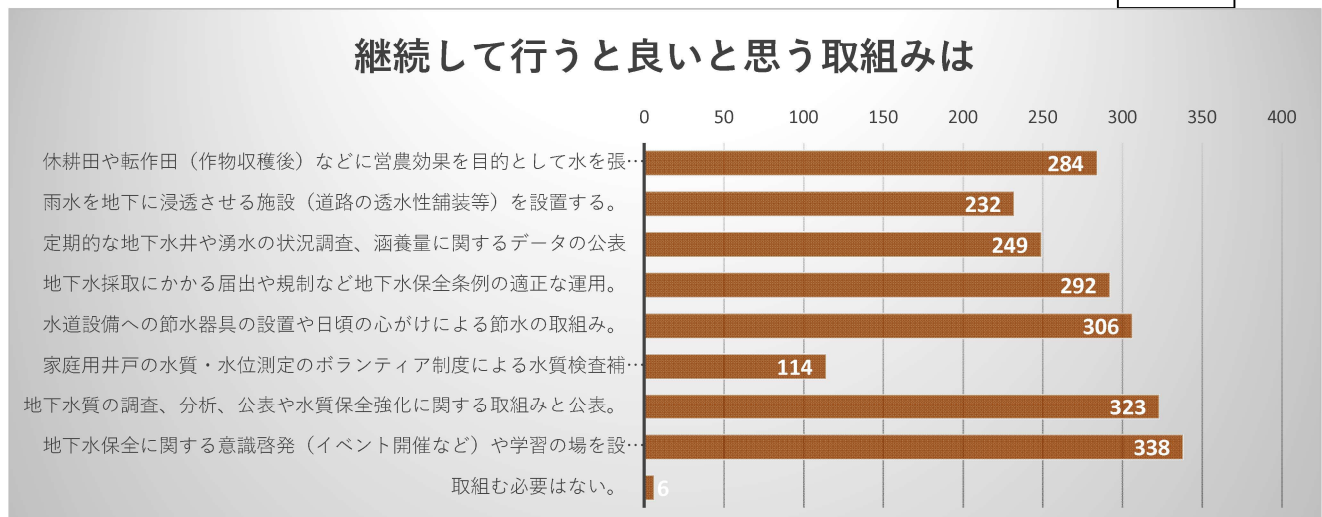
しかし、30%弱が行政が主体的に取り組むとの意識が強く、節水対策も含め、市民の意識改革を図るため、普及啓発活動が必要と感じた。

H23調査時と比較すると、全員の取組みが4%増加し、行政の取組みは、7%低下していることから、若干ではあるが確実に意識の変化は見られる結果となった。



【問6】 地下水保全のため、現在、取り組んでいる事業や対策で今後も継続して行くと良いと思う取組みはどれですか。（複数選択可）

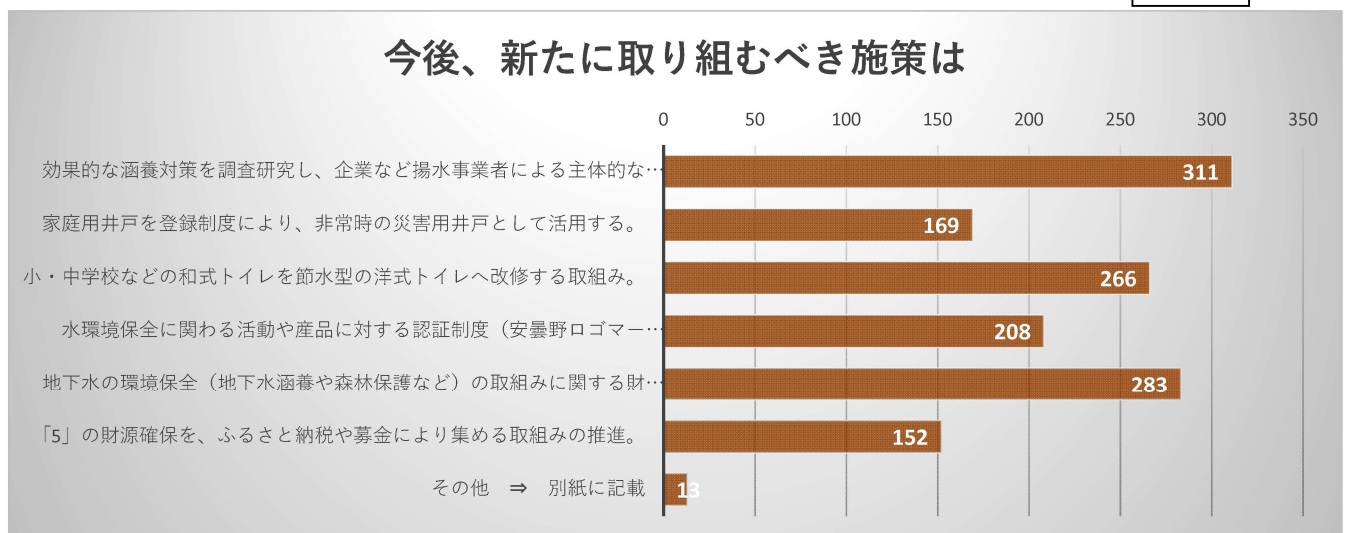
番号	回答	回答数	比率
1	休耕田や転作田（作物収穫後）などに営農効果を目的として水を張ることで、副次的効果として地下に浸透する水量を増やす取組み。	284	13.24
2	雨水を地下に浸透させる施設（道路の透水性舗装等）を設置する。	232	10.82
3	定期的な地下水井や湧水の状況調査、涵養量に関するデータの公表	249	11.61
4	地下水採取にかかる届出や規制など地下水保全条例の適正な運用。	292	13.61
5	水道設備への節水器具の設置や日頃の心がけによる節水の取組み。	306	14.27
6	家庭用井戸の水質・水位測定のボランティア制度による水質検査補助制度。	114	5.31
7	地下水質の調査、分析、公表や水質保全強化に関する取組みと公表。	323	15.06
8	地下水保全に関する意識啓発（イベント開催など）や学習の場を設ける。	338	15.76
9	取組む必要はない。	6	0.27
		2,144	



安曇野市水環境行動計画で目標に掲げた施策の達成に向け、取り組んでいる事業については、99.7%が、何らかの取組みが必要で、施策の継続を求めていることが明らかとなった。
望む声が多い項目では、「地下水保全の意識啓発、イベント、学習の場を設けること」、次いで「地下水質の調査、分析、水質保全強化に関する取組みと公表」となっていることから、地下水資源を大切に思う市民の意識向上を図ることの重要性、現在地下水がどのような状況になっているのか、より一層市民に関心を高めてもらえるよう様々な媒体を活用した情報発信の在り方を研究する必要があると思われる。
また、節水に関する取組みの必要性も高く、涵養と合わせて、節水による地下水の収支バランスを整えることが重要である。節水器具の設置は、将来的に節水器具設置に関する補助制度などを活用すれば、確実な水道使用水量の削減に寄与すると思われる。
地下水保全条例の運用についても理解が得られており、地下水保全のためには、届出、規制など引き続き、適正な運用が求められている。また、記述回答では、規制に関して水量を限定するなど厳しい意見も寄せられた。
涵養対策については、休耕田や転作田の活用及び浸透性舗装などの設置を含め、多様な手法により、涵養する施策の検討と実現性に向けた取組みが必要であることが確認できた。

【問7】 地下水保全のため、今後新たに取り組むべき施策と思うものはどれですか。
(複数回答可)

番号	回答	回答数	比率
1	効果的な涵養対策を調査研究し、企業など揚水事業者による主体的な涵養活動に活かす取組み。	311	22.18
2	家庭用井戸を登録制度により、非常時の災害用井戸として活用する。	169	12.05
3	小・中学校などの和式トイレを節水型の洋式トイレへ改修する取組み。	266	18.97
4	水環境保全に関わる活動や製品に対する認証制度（安曇野ロゴマーク）を活用し、地下水に関する	208	14.83
5	地下水の環境保全（地下水涵養や森林保護など）の取組みに関する財源を、地下水利用者（水道事業者・民間企業・受益者など）から負担してもらう仕組みづくり。	283	20.18
6	「5」の財源確保を、ふるさと納税や募金により集める取組みの推進。	152	10.84
7	その他 ⇒ 別紙に記載	13	0.92
		1,402	



最も取り組むべき施策として挙げられたのは、「涵養対策の調査研究と企業など揚水事業者による主体的な取組み」で、地下水を取水し利活用している企業による環境政策としての涵養取組みを強く望んでいる結果としてみる事ができる。

次いで、「地下水の涵養など取組みの財源を地下水利用者から負担してもらう仕組みづくり」となり、地下水の環境保全対策を具現化し、実益のある施策として展開していくためには、財源が必要でありその原資は、地下水利用者が負担するべきであるとの見解が概ね認知されていると考えられる。一方、財源については、ふるさと納税や募金による方法は、地下水利用者が負担する手法の半数程度であった。今後、進める資金調達については、資金調達部会において、先進事例や、専門的知見で様々な観点から財源確保の手法を検討することが必要である。

小・中学校のトイレを節水式に改修する具体案についても、新たに必要な施策としての期待が現れている。

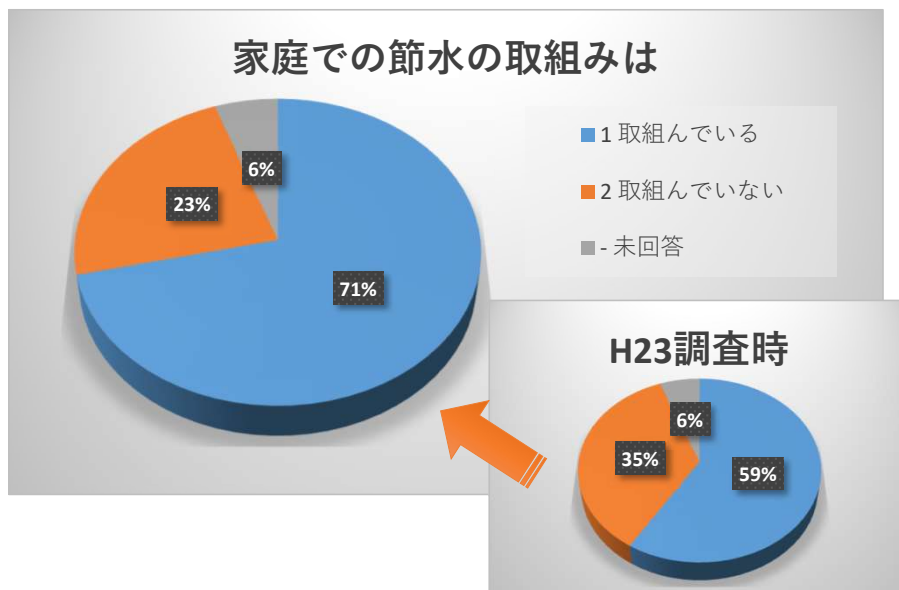
また、認証制度（ロゴマーク）を作成し、様々な活動を誘引する地下水保全に関するPR活動も今後必要と思われる。

非常時の災害用井戸として活用する施策は、昨今の地震や水害時におけるライフラインの代替施設として、必要な対策であり、地下水保全と共に災害時における市の危機管理体制を強靱なものとするためにも積極的に進める施策と思われる。

【問 8】 あなたの家庭では、普段から節水に取り組んでいますか。

番号	回答	回答数
1	取り組んでいる	342
2	取り組んでいない	111
-	未回答	26

節水の意識については、H23調査時と比較し、12%上昇したことから、市民の環境に関する意識の高まりと、各家庭で資源の無駄遣いを防ぐため、節水対策が進んだと思われる。また、消費税の増税や経済情勢の変化による背景も節水が進んだ1つの要因と推測される。

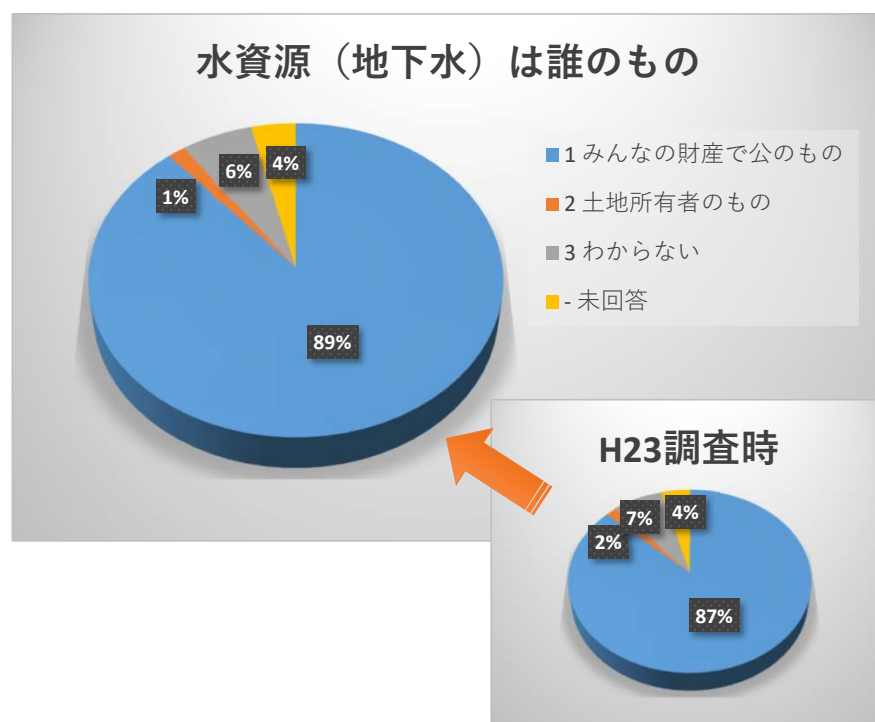


【問 9】 地下水利用について、水資源は誰のものだと思いますか。（ひとつだけ選択）

番号	回答	回答数
1	みんなの財産で公のもの	425
2	土地所有者のもの	7
3	わからない	29
-	未回答	18

水資源は、「みんなの財産・公のもの」の意識が90%弱を占めている。

H23調査時から2%上昇しており、市民の意識が条例に規定する基本理念である「地下水はかけがえのない市民共有の財産であり、かつ、公水であるとの認識に立ち・・・」の理念が浸透している結果となった。



資料 3

令和 6 年度事業に関わる中間報告

令和6年度事業に関わる中間報告

1 麦後湛水事業

- ・1,127 圃場（171 万 1,394 m²）で水張りを実施。
- ・地域別では、三郷・堀金地域が多い状況（別添資料参照）
- ・本年度、この事業を実施することによる三川合流部の湧水量の効果検証を行う（下記参照）

2 住宅用雨水貯留施設設置補助金

- ・令和6年度予算では、前年度実績から40万円を計上。6月25日で予算上限に達した。例年より高い需要があったことから、増額補正の計上を協議している。
- ・増加要因としては、防災用品としての需要、梅雨入りの遅れ、チラシの刷新・ホームセンターでのポスター掲示等が考えられる。

受付件数	補助金交付額（円）	最後の申請があった日
21	390,100	令和6年6月25日

3 地下水位報告ボランティア

- ・水質検査の補助を要件に実施してきた家庭用井戸の「地下水位報告ボランティア」の5年の任期が満了となった。
- ・各家庭井戸の毎週の水位を環境課に報告していただいております、公設井戸の補完値として活用している。
- ・このたび、6名中、3名の方が退任されたが、3名（穂高・穂高有明・豊科）の方が引き続き、ボランティアで報告をいただけることとなった。退任された方には、委員長名で礼状を贈呈した。

4 新規の調査

（1）犀川三川合流部における地下水流動解析と涵養エリアの特定

- ・令和8年3月まで実施。安曇野わさび田湧水群周辺における冬季湛水に向けた有効的な涵養エリアを科学的に示す。

（2）麦後等湛水に伴う湧水量効果検証

令和7年3月まで実施。麦後湛水効果の有無とその程度、水位または湧水量変化との相関の高い事項の検討を行う。この結果に伴い、地域が取り組むうえで、より効果的な地下水涵養施策の地域や時期を考察する。

（3）黒沢川表流水流量調査

令和7年3月まで実施。三郷地域黒沢川の最下流部で表流水流量状況を把握し、測定データによりあづみ野排水路内で涵養される涵養量を推定する。なお、あづみ野排水路と黒沢川の接続工事後にあづみ野排水路へ流水する水量を確認予定。

令和6年度 水田機能維持・地力増進推進事業負担金交付決定概要

2024/6/27現在

地区	圃場数	作付面積 (㎡)
豊科	41	79,382
豊科光	2	1,633
豊科高家	89	143,436
豊科田沢	1	623
豊科南穂高	48	56,093
穂高	54	81,076
穂高柏原	64	62,545
穂高北穂高	9	8,877
穂高牧	35	38,347
穂高有明	198	188,387
三郷温	162	288,633
三郷明盛	226	371,762
堀金烏川	192	378,193
堀金三田	6	12,407
総計	1,127	1,711,394

住宅用

雨水貯留施設の設置補助

令和6年度 安曇野市住宅用雨水貯留施設設置補助金のご案内

最大
5万円

令和6(2024)年4月1日現在

地下水の
かん養

循環型
まちづくり

災害時の
生活用水



対象施設

次のすべてに該当する施設

- ①雨水を貯留する構造を持つもの
- ②住宅の雨どい等に接続し架台などに固定して設置されているもの



対象者

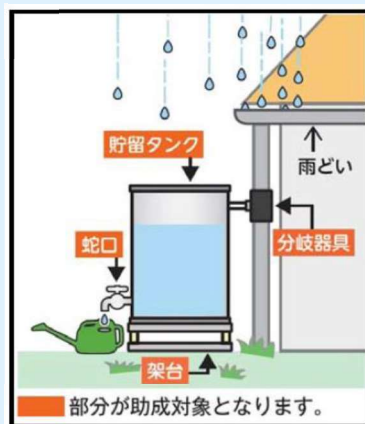
次のすべてに該当する人

- ①市税等の滞納がない人
- ②自らが居住するための市内の住宅(事務所・店舗などの用途を兼ねる住宅を含む)に対象施設を設置する人
- ③補助金交付申請をした年度内に対象施設の設置を完了できる人



ご注意

- ◆必ず、着工前(または製品の購入前)に申請をしてください。
- ◆補助金の交付は1つの住宅につき1基までです。
- ◆令和6年度の予算に達し次第、終了します。予算の残額は、申請前にお問合せください。



雨水貯留施設
雨水を雨どいから分岐器具によりタンクに流入させ貯めるものです。

雨水貯留施設

100ℓ～499ℓ
補助率 **1/2** 以内
最大 **2.5** 万円

雨水貯留施設

500ℓ以上
補助率 **1/2** 以内
最大 **5** 万円

合併浄化槽等から転用した貯留施設

補助率 **1/2** 以内
最大 **5** 万円

※補助金額に100円未満の端数がある場合は、切り捨てとなります。

お問合せ

安曇野市 市民生活部 環境課 環境政策担当

TEL 0263-71-2492(平日8:30～17:15) 〒399-8281 安曇野市豊科6000番地

安曇野市 雨水補助金

